

過去に京都で行われていた宮中行事の例

五節句行事

五節句とは人日(じんじつ)、上巳(じょうし)、端午(たんご)、七夕(たなばた)、重陽(ちょうよう)の五つの節日のことを言います。明治時代以降行われなくなりましたが、一部の神社などでは似た行事が、文化行事として行われています。

◆ 人日 ◆

七草の入った粥を食べ、一年の災いを祓う「七草(ななくさ)」という行事が行われていました。

また帝が白馬が庭を通るのをご覧になる「白馬節会(あおうまのせちえ)」という行事も行われていました。



イメージ・上賀茂神社「白馬奏覧神事」

◆ 上巳 ◆

幼年の宮に雛人形を献上する行事が行われていました。また鶏を闘わせる「闘鶏」という行事が行われていました。



イメージ・津島神社「闘鶏転供祭」

◆ 端午 ◆

邪気を払うために屋根や枕元に菖蒲などの薬草を置く行事が行われていました。



イメージ・鶴岡八幡宮「菖蒲祭」

◆ 七夕 ◆

牽牛星・織女星の二星に和歌の上達を祈る行事が行われていました。



イメージ・大宮八幡宮「七夕の神遊び(技芸上達祈願祭)」

◆ 重陽 ◆

杯に菊花を浮かべた酒を飲むほか、菊に綿をかぶせて露で湿らせる行事が行われていました。



イメージ・貴船神社「菊花神事」

※写真はイメージであり、実際の五節句行事をそのまま再現したものではありません。

京都と皇室の歴史

京都は、東京以外に全国で唯一御所を有し、千年の間、天皇がお住まいになり、宮中文化が育まれてきました。明治初頭に天皇が東京に移られてからも、旧皇室典範に即位礼・大嘗祭を京都で行う様に定められ、京都において宮中の儀式が行われていました。戦後の皇室典範の改正に際して、京都で即位礼・大嘗祭を行うという規定はなくなりましたが、天皇皇后両陛下によるお茶会が開催されるなど、今日においても、皇室と京都の関わりは続いています。

双京構想推進検討会議

【お問い合わせ】 ●京都府 075-414-4341 ●京都市 075-222-3375 ●京都商工会議所 075-212-6430

※双京構想推進検討会議は、本構想の実現に向けた調査や啓発事業等の取組を共同で推進しています。

双京構想

双京構想とは

皇室の弥栄のために、京都にも

皇族の方にお住まいいただき、

東京との双京を実現する構想です。



なぜ双京構想を目指すのか

東日本大震災を一つの契機として、東京にあらゆるものが集中しているわが国のあり方が問題とされています。首都直下型地震発生リスクが一層高まる中、万が一の事態に備えて、首都中枢機能のバックアップ体制を早急に構築することが求められており、とりわけ、日本の精神的支柱である皇室の安心・安全の確保について、万全の体制を整えておくことが必要です。

また、京都は、千年の間、天皇がお住まいになり、宮中文化が育まれ、今もなお、日本の歴史・文化の中心として多くの人々を魅了し続けています。京都が、日本人の心と文化を体現するもう一つの首都として、日本の伝統や文化を守り育てることが、バランスのとれた豊かな国づくりに必要です。

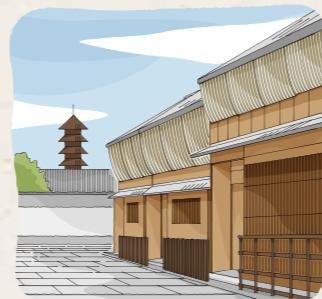
＝目指すべき姿＝

皇室の方々のご出席される国際会議や宮中行事の京都での実施などにより、皇室の方々へお越しいただく機会を増やし、1週間、そして1か月間という長期のご滞在へとつなげ、将来的にはお住まいいただくことを目指します。

＝京都における取組＝

双京構想の実現に向けては、一つ一つ実績を重ね、京都にお住まいいただける環境を整えていくことが大切です。そのため、具体的に以下の取組を進めます。

- ①「京都の未来を考える懇話会」(*)メンバーをはじめ有識者などによる双京構想の発信や講演会の開催などあらゆる機会を捉えて、京都内外で双京構想の実現への機運の醸成を図っていきます。
- ②景観資産の保全・再生・創造、歴史的風土の保存・活用などにより京都らしい品格を高める取組を推進し、皇室の方々をお迎えするのにふさわしいまちづくりを進めていきます。
- ③皇室の方々のご出席される国際会議をはじめとする様々な催しが京都で開催されるよう取り組むとともに、「京都の未来を考える懇話会」など各種団体から、政府に対し双京構想の実現に向けた取組を要望していきます。



※「京都の未来を考える懇話会」は、京都の行政、産業、大学、文化・観光、メディアの代表が、30年後の京都の「ありたい姿」を自由に語り合い、オール京都で、府民、市民が、一緒に目指したいと思う未来像を描くことを目的に、平成22年4月に設置されました。
※双京構想は、「京都の未来を考える懇話会」の議論の中で発表されたものです。

明治以降に京都で実施された皇室行事

◆大正天皇、昭和天皇の即位の礼・大嘗祭

＞即位の礼

天皇が位につかれたことを公に告げられる儀式。皇位の継承があったときに行われる様に定められています。

＞大嘗祭(だいじょうさい)

天皇がご即位の後、大嘗宮の悠紀殿(ゆきでん)・主基殿(すきでん)において初めて新穀を皇祖・天神地祇に供えられ、自らも召し上がり、国家・国民のためにその安寧と五穀豊穡などを感謝し祈念される儀式。

「ご即位・立太子・成年に関する用語」(宮内庁) (<http://www.kunaicho.go.jp/word/word-sokui.html>)を加工して作成

◆お茶会

平成2年、即位礼及び大嘗祭の後、天皇皇后両陛下の京都への行幸啓の際、古来皇室にご縁故の深い近畿地方の各界の代表等を招いてお茶会が開催されました。また、平成11年、21年にも、ご即位10年、20年の記念行事として京都にてお茶会が行われました。そのほか、昭和56年に京都でお茶会が行われています。

「ご即位・大札の主な儀式・行事」(宮内庁) (<http://www.kunaicho.go.jp/20years/20kiroku/sokui-01.html>)

「地方へのお出し(都道府県別)」(宮内庁) (<http://www.kunaicho.go.jp/about/gokomu/odemashi/rocal/rocaldata-02.html>)を加工して作成

京都での開催が望まれる行事の例



◆観桜会

内容 花見に合わせて蹴鞠などの伝統的な文化行事を行うことによる皇室の方々との交流

招待者 在外公館関係者、自治体の長、文化関係者など

場所 京都市内の桜の名所



◆宮廷文化関係者茶会

内容 宮廷文化の伝統を支えている方々と皇室の交流

招待者 皇室ゆかりの寺社関係者、伝統工芸関係者、皇室関係の学問の研究者など

場所 京都御所、仙洞御所、二条城など

※上記のほか、明治以降行われなくなった五節句など伝統的な宮中行事の、古式に則った京都での復活も検討に値するものと考えています。